

◆義士銘々伝三 書き下し文

【妙海尼】

妙海尼めうかいに

堀部弥兵衛の娘にして安兵衛の妻たり、父夫本意を遂げ自殺せし
のち尼となりて、菩提を弔ひ九十三才にて没せしといへり、

【服部八郎】（服部逸郎）

服部八郎はつとりはちろう

徳川家旗本の勇臣たり、義士の面々本意を達し、両国橋を引揚る
途中に行あひ、其身一人にして威をしめして、橋を渡さざりしとぞ、

【鳥居利右衛門正次】

鳥居利右衛門とりみりゑもん

吉良家強勇の一人たり

【吉良上野介義央】

吉良上野介義英きらかうつけのすけよしひて

其身重 職に在て意鄙恪にして、賄を貪り自ら奢侈驕慢に過
たり、故に後代まで汚名を残せり、

【大高源五忠雄】

大高源吾忠雄おほたかげんごたゞを

忠雄ハ文武に達したる良臣なり、其角と交りふかく俳名を子葉
と号り、復讐引取の時 山をぬく力も折て松の雪

刃無一劔信士

【宝井其角】

榎本其角えのもときかく

【間喜兵衛光延】

はぎまきへゑみつのぶ
間喜兵衛光延

※辞世 都鳥いざことゝはん武士ものゝぶの 恥はぢある世よをバしるやしらずや
刃泉如劍信士

※辞世ではない

【大石瀨左衛門信清】

おほひしせぎゑもんのがきよ
大石瀨左衛門信清

信清ハ大石良雄よしをの従弟いとこにして、忠義無二ちうぎむにの士しなり、
炮術はうしゆつに妙めうを得え
しといへり、

刃寛徳劍信士

【原惣右衛門元辰】

はらそうゑもんもととき
原惣右衛門元辰

刃峰毛劍信士

【貝賀弥左衛門友信】

かいがやぎゑもんとものお
貝賀弥左衛門友信

友信ハ大石おほひしより義士等盟約ぎしらめいやくの誓紙せいしをあづかる誠忠無二せいちうむにの士しなり、
刃電石劍信士

【奥田孫太夫重盛】

おくだまごたいふしげもり
奥田孫太夫重盛

辞世 雪ゆきの翌日あすいのち命きえも消きえる旭あさひかな
刃察周劍信士

【菅谷半之丞政利】

すげのやはんのせうまさとし
菅谷半之丞政利

政利ハ性質義直にして、武芸に達せし士なり、
刃水流劍信士

【千馬三郎兵衛光忠】
千馬三郎兵衛光忠

光忠ハ鎗劍に達し、義勇金鉄の武士なり、
刃道至劍信士

【中村勘助正辰】
中村勘助正辰

赤城退去の後、江都糶町に住し手跡を指南す、ある時ハ辻占ひに出、敵邸の様子を窺ふ、稀なる誠忠の士たり、

刃露白劍信士

※赤城：赤穂の誤記

【前原伊助宗房】
前原伊助宗房

宗房ハ五兵衛変名して商人となり、敵邸の容子をうかゞひけり、
刃補天劍信士

【間新六光風】
間新六光風

喜兵衛光延の次男、十次郎光興の弟なり、
刃横雄劍信士

【間瀬孫九郎正辰】
間瀬孫九郎正辰

刃太及劍信士

【山岡角兵衛妻竹女】

やまをかかくべゑつまたけぢよ
山岡角兵衛妻竹女

ときハごぜん ミさほ すて
常磐御前の操を捨しも、時宜に寄りてハ貞女とす、竹女ハ夫角兵衛義士の列に加ハリけるに、はからず卒死せり、竹女泪にくれ、大石に斯と告げ、其身関 東赴き吉良家に仕へ、義士等に内意を通じ、夫に代り誠忠を尽せしとなん、貞女の鑑といふべし、

【天野屋利兵衛】

あまのやりへゑ
天野屋利兵衛

あさのけおんこ もの
浅野家恩顧の者なり、赤穂凶変の後大石にたのまれ、密に夜討の器械を調 ける所、鍛冶これを訴人せしかバ、利平忽ち囹圄につながられ、呵責の苦ミをうけけれども、更に白状せず、大石本懐を遂しと聞、自ら訴へて罪にふくさんことを請ふ、官吏其誠義を感じ、その罪を宥らる、古今に稀なる義侠たり、

※囹圄…牢獄のこと